

## 「知事とのフレッシュトーク」（平成22年9月1日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成22年9月1日（水）に黒石市の県立黒石商業高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

### 黒石商業高等学校の概要

昭和49年に情報処理科、商業デザイン科、事務科、営業科の4学科にて開校。昭和54年に学科転換され、商業科、情報処理科、商業デザイン科の3学科となる。

現在、情報デザイン科120名、情報処理科120名、商業科240名で、計480名の生徒が学んでいる。

---

### ◆知事入場◆

黒石商業高校キャラクター「つゆヤキソバン」の誘導による。



### ◆開催◆

#### 知事（始めのあいさつ）

こんにちは、今日は本当に楽しみにしていました。昨日は上北の方で中学生と話をしてきました。どの町や村に行っても、それぞれに自分たちの街に対する思いがすごくあります。皆さんが、街づくり、地域おこしのために自分たちのアイディアで、いろんなことを進めてくれていることをうれしく思いました。なによりも自分の街のいいところを見つけ

て、いいところを好きになろう、地域と一緒に育っていこうという気持ちをうれしく思っています。今日は楽しい授業、討論会にしていきたいと思っていました。皆さんといい時間一緒に過ごせたらと思っています。よろしくお願いします。

### ◆生徒によるプレゼンテーション◆

テーマ：「黒石の復興 わたしたちができること ― 3年計画・3年間の取組とこれから―」



プレゼンテーション要旨：

- ・ 高校生ビジネスプランコンテスト（黒石市商工会議所主催）を通じて、黒石市活性化について身をもって体験したこと。
- ・ 黒石市の魅力をモチーフにしたキャラクターを作り、青森のゆるキャラの一員として定着したこと。
- ・ 2年連続で、黒石市から「ふるさと自慢わがまちCM大賞」でのCM製作を任されたこと。
- ・ 3年間にわたる取組の中で、黒石市長をはじめ多くの人々を動かしてきたこと。

平成22年8月28日、岩手県奥州市文化会館で開催された、「第14回東北六県高等学校生徒商業研究発表大会」で発表されたものです。結果は第3位でしたが、第2位の学校と同点で、第1位の学校とも5点差という僅差でした。発表態度については、東北12校出場のうち最も高い評価を受けた作品でした。

#### 知事（プレゼンテーション所感）

自分の街のもっている宝、いいところに気がついて、それを伸ばしていこうという若い感性、若さの力を感じました。3年間かけてぐんぐん仕事進めて、それが本当に市政に、街づくりに活かされたということをととてもうれしく思いました。でも、なによりもやる気

を失わないで、全力でやったということがすごくいいと思いました。

### ◆生徒と知事との意見交換◆

#### 発言者1（商業科3年 女子）

知事は黒石市についてどのような印象をお持ちですか。また、「黒石市といえばこれだ！」というものをご存じでしたら教えてください。

#### 知事

黒石の印象といえば、なによりもきれいな街、しっとりと落ち着いた街ということです。でも、そうすると君たちは、ただ静かなだけでつまらないと思うかもしれないけれども、ゆったりと時間が流れていくということが、すごく大切な時代になったと思っています。ですから、このゆったりと時間が流れるということを、どれほど大切な宝だと、みんなが、自分たちが思うことができるのかということと、その一方で、産業、働く場をみんなでどう考えていくかということも、だんだんと問われていく時代になっているのかなと思います。

#### 発言者2（商業科3年 男子）

私たちの先輩方が3年計画で取り組んできた「黒石市活性化」活動を引き継いで、私たち3年生も取り組んでいます。この活動の根本には、「既存のモノを活かす」という考え方があります。

黒石には歴史建造物、多くの祭り、美味しい食べ物など全国に誇れるものがたくさんあり、この一つひとつをもっと広く情報発信することが重要と考えています。そのためには「地元の間が地元を知ること」も大事なことだと考えています。

黒石市を活性化させるために、新しく何かを始めたり、商品開発ではなく、既存のモノを活かすという考え方を知事はどう思われますか。

#### 知事

すごく大事なことだと思います。青森県には地域資源といって、すごくいいものが隠れています。そして、それをそれぞれの街の人がどう見つけるかということが勝負だと思っています。青森県というと、例えば有効求人倍率が全国で下から2番目、3番に低いとか、悪いところもあります。でも、悪いことだけを一生懸命見ていると、だんだん体も気持ちも暗くなるでしょう。

明治の初めの頃、イギリスの女性イザベラ・バードが旅行に来て、中野の紅葉山を通りながら、日本の最も美しい風景はこの青森の黒石にあるということを言っています。いい

ものを発見して、そのいいものをどんどん活用しようということが、今問われていると思っています。

ですから皆さんの先輩たちが、自分の街を一生懸命探検して歩いて、いいもの、いいコンテンツ、これを活かせるというものを発見して、そして実際に活かす戦略をとったということはすごく素晴らしいと思います。いいものを見つけても、いいものがあつたので報告します、で終わるのではなく、それをみんなで活かしましょうと言ってきて、市長さんもよしやろうと言ってきて、黒石では今、とても元気づくりが始まってきていると思います。

それから、黒石と言えはりんごだと思っていますが、津軽山形グリーン・ツーリズム研究会が作ったりりんごのお酒を、一番に飲ませてもらいました。熟成させたりんごで作ったお酒だったので、すごくおいしくかったです。

そういうふうに、自分たちの街のいいものを活用して、商売をおこしたり、仕事をおこしたり、特産品を作ったり、そういうことがどんどん始まっている黒石は、いいなと思います。そういう元気がふつふつと出てきたのは、黒石商業高校のみんなが、自分たちの街をキャンペーンしよう、いいところ見つけてそれを提案しようとしてくれた、その成果だと思っています。

あなたの将来の夢は何ですか。

## 発言者2（商業科3年 男子）

将来は県内の大学に進んで、医療関係の仕事につきたいと思っています。

### 知事

青森県は今、医師が足りません。各学校に、必ず一学年から一人、医師を受験して合格させてくださいというお願いをしています。お医者さんでなくても、医療関係、命を守る仕事はすごく厳しい仕事です。でも、働けば働くほど、真心からの感謝をいただける、いろいろやってあげることによって、ありがとうと言ってもらえる、素晴らしい仕事の一つだと思います。

## 発言者3（商業科3年 男子）

12月に新幹線が青森まで来ることになりました。私たちは単純に東京まで3時間で行けるようになると考えていますが、この新幹線開業によって青森県内にもたらされる最大のメリットはなんでしょうか。また、観光客誘致に関する広報活動で力を入れていることを具体的に教えてください。

### 知事

観光客の話ですが、実はすごく多くのお客さんが青森に来たいと思っています。首都圏

だけでなく関西でもアンケート調査をしましたが、関西では東北で一番興味があるのは青森でした。しかし、青森に来ない理由は、距離が遠いということでした。新幹線はそこにすごく関わっています。

一番のメリットは観光客が増えることだと思います。観光客が、泊まったり食べたり、お土産を買ったりする、そういったことによる経済効果が青森にやってくることになると思っています。青森県の最大の課題は経済の量、回る現金の量だと思っていますが、経済の元気ということがすごく今の青森県には大事だと思っています。攻めの農林水産業といって、例えば県の農林水産品の輸出額で151億円とか、県外の大手量販店での売上高が226億円になるとか、そういうセールスをやっていますが、その分金回りを多くすることで、青森県の経済を元気にしたいと思っています。

また、交流人口が拡大することは大きなチャンスだと思います。そのチャンスを逃さないように、お金を使いたくなるようなお土産や食べ物、来て泊まりたくなるような温泉の仕組みなどがすごく大事です。そこで、今県全体で7つの協議会と67の団体がそれぞれにアイデアを出して、来ていただいた方々に楽しくおもしろく、青森って良かったなと思ってもらって、なおかつお金を使ってもらおうということを進めています。

また、黒石市では早い時期から、山形地域の方でグリーンツーリズムをやっていて、他の地域から修学旅行に来たい方など、多くのお客さんをいろんな所から呼び込むようなことを進めてくれています。

今、鹿児島県といろいろな事業を共同してやっていますが、来年の3月には鹿児島まで新幹線が開通します。青森から鹿児島まで、120年前に東北本線が通って以来、本州と九州が新幹線で一本につながるといことになります。そういったことによって、つながった青森、近くなった青森ということで、企業誘致も含めてすごくプラスになると思っています。一昨年のリーマンショックって知っていますか。これまで7年間で、180社の企業誘致と増設をしていますが、リーマンショックの頃でさえ、新幹線が2010年の12月に青森まで行きますと言ったら、新しく青森に来る企業が16社と、バブル以来一番多かったのです。

今まで企業誘致の場面で必ず言われたのは、「新幹線は？」ということ、それがつながるといメッセージが出たことで、企業が来てくれるようになったという効果が実際にあがっています。交流人口が増えることや、つながったという自信が持てたこと、地域活性化、企業誘致も含めて、そういったことにもつながってくるとしています。

さっき7つの協議会と67の団体が一生懸命いろんなことやっているという話をしましたが、黒石商業の先輩たちが3年間かけて、黒石のいいところを見つけていろいろな活動をしたように、県内の市町村がみんな競い合って、自分の街のいいところを一生懸命探して、観光コンテンツ集にまとめました。まとめたコンテンツ集で、JR6社ほか、全国の旅行業者の人たちが、その本の中からルートを組み合わせて旅行商品を作ることになっています。地域そのものも自信を持って元気になり、全線開業をきっかけにいろんなこ

とが始まりました。そのことが、実はすごく大事だったと思います。

### 発言者3（商業科3年 男子）

観光客誘致に関する広報活動で、特に力を入れていることを教えてください。

#### 知事

県も力を入れています。JR東日本が中心になって、たくさんCMを製作してくれています。例えば、今、三浦春馬君が出ているCMは、首都圏で週替わりで放送されています。

JRもそういうかたちで盛り上げたり、全国のあらゆる駅に青森のポスターを貼ってくれたりしてくれています。県も負けずに力を入れています。今度「とことん青森 in 東京」と言って、東京を乗っ取ろうということをやります。今年の1月にも「とことん青森 2010 in 原宿表参道」という催しを行いました。原宿の街中に青森の旗を立てたりとか、26カ所のカフェレストランで、青森の料理を青森の食材を使って作ってくれたりとか、一番すごかったのは、青森ねぶたを出したことです。

今度も青森ねぶたに加え、弘前ねぶた、五所川原立佞武多、八戸三社大祭の山車、これらを4つ持って行って派手にやります。その他に津軽三味線隊を50組、虎舞などの郷土芸能も送り込んで、東京中で盛り上げます。我々が一番お客様を呼び込む必要があるのは首都圏なので、大誘客イベントをやります。その場面にはB級グルメ部隊も参加します。黒石つゆ焼きそばも、前は11時から販売を始めて、午後2時くらいには全部無くなってしまいました。今回はいっぱい持っていきこうということになっています。

そうやって全国に新幹線が繋がったということをキャンペーンして、お客様をさらに呼び込もうと思っています。JRとか大手旅行代理店には、開業後にはすごく多く予約が入っていると聞いています。期待してください。

### 発言者4（商業科3年 男子）

本校は部活動が盛んで、過去にはソフトテニス部が10年連続インターハイ出場を果たすなどの実績も残しています。私は硬式野球部に所属していました。野球だけではないのですが、青森県内でプロスポーツを観戦できる機会が全くと言っていいほどありません。それは施設の問題だと聞いています。

プロスポーツを実際に見るということは、テレビなどで見るよりも迫力やスピード感などの違いがあり、私たちはもちろん小中学生にも大きな影響を与えることが多くあるように思えます。今後、将来的にプロスポーツを観戦できるような施設の建設は予定されているのでしょうか。

## 知事

青森にも野球場がないわけではありませんが、例えば2万人、3万人のお客さんが入る野球場でないと、採算がとれないということがよく言われます。現在の施設では、集客数が少ないということです。

青森県としても、一流選手の生の演技やプレイを見ることはすごく刺激になるし、よし自分も頑張るぞという気持ちになると思います。大きなスポーツ施設などもあればいいなと思います。



青森県には膨大な借金がありました。7年前青森県知事になって、最初にやったことは行財政改革です。そして、延べ1100回程説明会を開きました。自分だけでなく、県の職員もみんなあちこちに行って説明しました。そして、4千数百億円をこれまで返済しました。平成20年に、やっと元金ベースでのプライマリーバランスが黒字化して、収支均衡といいますが、来年度は入るお金で出るお金を賄う段取りができるかというところまできました。

という中で、大規模施設については計画的に、先々の財政状況の方向性がもう少し楽になってからということをやっています。一流選手のプレイをみるのは大事だし、プラスになることだと思いますが、まだ行財政改革の途上であるということで、わかってもらいたいと思います。

将来は何になりたいですか？

## 発言者4（商業科3年 男子）

将来は県内で就職して、しっかりした家庭を築きたいです。

## 知事

しっかりした家庭を築くためには、働く場を我々がしっかり作らないといけませんね。

そのために企業誘致だけでなく、県内の産業おこしを一生懸命やっています。りんごを作ったり、マグロを獲ったり、イカを獲ったり、ナガイモを作ったりという農林水産業もありますが、それをちょっと加工して、加工したものを販売、流通させて、二次産業と三次産業を一体化させる。りんごスイーツを作ると、



そこに働く人が必要になるし、それを販売するサービス業、流通の人が必要になります。そういうかたちで、県内で自分たちの得意分野を伸ばそうということも一生懸命やっています。得意分野は何かと言われると、やはり食べ物関連の産業、この加工や流通の新しい仕組みです。

それから、人間が生きていくのに、水と食料とエネルギーが一番基本的なものです。青森県は今、再生可能エネルギーとあって、原子力だけでなく、太陽光、風力、バイオマス、地中熱などの研究の最先端にあります。東京駅近くの丸の内ビルディングの電気は、実は青森の風力発電で作られたものです。また、クラウドという新しい情報システムのことでも、データセンター立地の方面で、青森や北海道などが声をかけられていますが、そういったエネルギーに関連する新しい分野をすごく大事にしたいと思っています。

そして、新幹線を含めての活用ということで、青森の得意分野、食料の部分、エネルギーの部分、観光の部分、この部分を本気でもっともっと伸ばして行って、働く場を作ろうと思っています。

#### 発言者5（商業科3年 女子）

黒石市には私たち高校生が買い物をする場所、遊ぶ場所が少ないと感じています。ジャスコ黒石店・大黒デパートがなくなって数年が経ち、今はワンストップショッピングができるデパートがありません。黒石市にはJRが通ってなく、電車で弘前に一度行ってから、またはバスで浪岡駅に行ってから、青森へといった交通手段の不便さもありますが、それでも買い物をすると弘前市や青森市へ出かけることが多くなります。また、以前に部活動の遠征で青森市浅虫を通ったときに、浅虫水族館の向かい側にある建物が遊園地だったと聞きました。県内には浅虫水族館のほかに目立ったアミューズメント施設が少ないように感じます。

私たち高校生の視点だけではなく、そして、黒石市に限ったことではありませんが、青森県内でもっと多くの商業施設やアミューズメント施設が建設される予定はあるのでしょうか。

#### 知事

予定としては、12月に開業する七戸十和田駅の近くに、イオンが出店するのが、今一番新しい話です。黒石の街中だけでいろいろな買い物ができるかと言われると辛いところがありますが、弘南鉄道、バス、高速バスなど、いろいろな交通手段を使って、他地区のショッピングセンターへも行ってください。

黒石は古くからの商業都市で、昔からみんなが集まって、マッコ市もあるなど、すごくいい所です。すごく良い温泉、紅葉の名所があり、あるいは道の駅に行くと、いろいろな地域の美味しいものがいっぱい買えたりします。都会の人たちはよくグリーン・ツーリズムで青森に来ますが、向こうにないものがこっちにあって、向こうにあるものがこっちにな

いということなのでしょう。恵まれている部分、プラスの部分、今ある資源、自分たちの美しい山、川、海を含めて、あるいは自分たちの持っている安全安心、美味しくて安い、安いのに安全な食べ物があって、すごく人間関係が良いことなどを見てもらえるとうれしいなと思っています。

ということで、大規模なアミューズメント施設や商業施設については、これからも厳しいかなと思っています。

将来は何になりたいですか。

#### 発言者5（商業科3年 女子）

栄養士になりたいです。

#### 知事

青森県は今、肥満率が高くなってすごく困っています。実は青森県、今最大の課題は肥満です。国立がんセンターの院長先生が、糖尿病とか肥満の対策をしないと、抵抗力、免疫力が低下してしまう、そっちをどんどんてこ入れしないと、心臓や脳にも影響があるとおっしゃっていて、今そういったセンターをつくって、みんなで筋肉質に変わろうという運動をしています。

#### 発言者6（商業科3年 女子）

日本全体が不景気と言われ続け、雇用の問題が大きな社会問題となっています。本校では過去3年間の進路達成率が98%を記録しています。しかし、進路指導の先生方からは「進路達成は難しい、特に就職は年々厳しくなっている」と1年生のときから聞かされています。

私は県内就職を希望していますが、青森県内の高校生求人倍率は1.04倍で全国的にみても下位に位置しています。県外就職をして、何年か後に青森に戻ってくることも考えましたが、そのときに県内で働き口があるかどうかもわかりません。

現在の県内の経済状況と雇用問題がどのようになっているのか教えてください。また、将来的に青森県内の雇用は良い方向へ進んでいくのでしょうか。

#### 知事

高校生の求人倍率は、昨年や一昨年のすごく悪い状況の中でも、今年の春は1.12、その前の年は1.34と、1を超えました。本当にみんなで頑張って、先生方にも求人を開拓してもらったし、県庁でも県内をあちこち歩いたし、いろんなアイデアを考えて、どんどん求人倍率を上げる取組を進めました。

ただ、今日、商業高校に来て思うことは、企業誘致をしているのはどちらかといえば工場などものづくりの方面で、事務系の職種が非常に厳しいことは事実だと思っています。

それでも、基礎であるところのものづくり系の企業を集め続けることで、求人倍率が1を超えるための戦略を進めたいと思っています。

しかし、得意分野を伸ばす中で、ものづくりだけではなく、営業やメンテナンスのサービスなど事務系に近い職種、文化系の高校にも対応できるようなものも伸ばしていかなければいけないというのも、大きな仕事のひとつだと思っています。

有効求人倍率は、高校生の分野について言えば1.12と低いながらも、100人働きたいと思うと、112人の求人があります。どうしても合う仕事、合わない仕事、ミスマッチということがあるでしょうが、青森県としては、これからも求人倍率が1を超えるように最大の努力をしていきたいと思っています。

津軽平野には、キヤノン、エプソンなど、世界の超一流企業が集まっていて、青森県の中でもすごく良い状況です。しかも、大きな企業では、採用の仕方も本採用というかたちで切り替わってきています。皆さんにお願いしたいことは、恐れずに、自分には合わないと思っても、少し考えてみて、前向きにとらえて、進んでくれたらすごくありがたいなと思います。

また、どうしても資格を取らなければいけない仕事もありますが、そういったこともこれから大事です。特に1、2年生には、早いうちに自分の人生の方向性を少し考えて、それに向けた勉強と、取れる資格は取るという気持ちでいてくれたら本当にありがたいなと思っています。

将来は何になりたいですか。

#### 発言者6（商業科3年 女子）

将来は県内で事務職として働きたいです。

#### 知事

青森県内の商業高校は、黒石商業高校も含めてすごく評判が良いです。就職試験や面接のときには、思い切り自分の考えていることを話してくれたら、絶対合格できると思います。期待しています。

### ◆知事所感◆

#### 知事

今日は暑い中、よく付き合ってくれました。生徒諸君にもお礼を申し上げたいと思います。

黒石の復興計画、良かったです。自分の街を自分たちが良くしようという、若い人たち

がいなければ、絶対に街は良くなりません。これからも、先輩たちの考え、進めてきたことを引き継いで、しかしながら常に時代が変わっていくなかで、今の時代にはこうした方が合うというものをそれぞれ発見して、更なる復興計画を進めていただきたいと思います。

そして、今日こうして話をさせていただいた6名の諸君、思いっきりいろいろなことを本気で話してくれてうれしかったです。率直にいろいろな話をお互いに行うことができたことを、何よりもうれしく思います。そして、今日この壇上に上がることができなかった黒石商業高校の生徒諸君、皆さんに贈りたい言葉、お願いしたい思いがあります。



自分自身、好奇心ということをすごく大事にしています。我々を育ててきたのは、限りなき知的好奇心、何があるのだろう、どういことが起きているのだろう、どういう味がするのだろうという、前に進もうという気持ちです。

そしてもう一つ、その好奇心を支えていくチャレンジしていく気持ち、挑戦していく気持ち、もうこれでいいではなくて、もうちょっとやってみようというチャレンジする気持ちです。今日こうして会うことができた生徒諸君には、これからの人生で面白いことを自分で見つけようという好奇心と、よし行くぞというガッツ、チャレンジする気持ち、好奇心と挑戦、この二つのことを皆さんに贈りたいと思います。みんなで青森県だけでなく、世界を元気にしましょう！

了